



「1ねん1くみ1ばんサイコー！」 後藤竜二×長谷川知子展

観覧料
無料

- 会 期 7月19日(土)～9月21日(日)
- 観覧時間 午前10時～午後5時
- 休 館 日 毎週月曜日(ただし7月21日、9月15日は開館)
8月14日(木)、9月11日(木)
- 会 場 町田市民文学館ことばらんど

子どもたちののびのびとした姿を描く「1ねん1くみ」シリーズは、1984年から25年にわたって刊行され、子どもたちの共感を得て長く読みつがれてきました。全25作を数えるこのシリーズは、元気でわんぱくな“くろさわくん”と、気が弱くて泣き虫の“ぼく”の友情を中心に、あそびやけんか、勉強を通して、ぶつかり合いながら相手を理解し心を通わせていく「1ねん1くみ」の仲間たちの成長を描いています。

作者・画家のお二人は、町田ゆかりの作家でもあり、作者の後藤竜二さんは、ありふれた日常の中で、現実を生き抜く術を獲得しようともがく子どもの姿を描きだし、子どもたちに勇気や希望を与えてきました。画家の長谷川知子さんは、躍動感あふれる筆致と生き生きとした色使いによって、子どもの魅力を余すところなく描いています。

本展では、「1ねん1くみ」の名場面の原画を展示し、物語の世界を楽しんでいただくとともに、後藤竜二さん、長谷川知子さんの作品の数々もあわせてご紹介します。

問い合わせ 町田市民文学館 (〒194-0013 町田市原町田4-16-17 ☎739・3420)

生涯学んで

いいこと
ふくらむ
まちだ

ぼくらの
1ねん1くみに
みんなも
あそびにきてね。



会期中はオープニングイベントやワークショップなどさまざまな関連イベントを実施します。詳細については、町田市民文学館にお問い合わせ、または町田市ホームページをご覧ください。

2014年度第1回企画展

「風刺漫画に見る明治」

入館料
無料

- 日 時 7月19日(土)～9月7日(日) 午前9時～午後4時30分
- 休 館 日 毎週月曜日(ただし7月21日は開館し、7月22日に休館)

明治10年代、社会を巧みに切り取る『团团珍聞』『驢尾団子』などの風刺漫画雑誌が登場しました。これらは、庶民感覚に寄り添いつつ政治や世相を風刺したシニカルな笑いを読者に提供する、ということねらいとしていたため、政府と対峙する自由民権運動に共感する漫画も数多く掲載されました。

今回の展示では、これらの雑誌に掲載された風刺漫画から、自由民権運動や同時期の政治・社会・世相を読み解きながら、当時の笑いの一端を感じていただければと考えています。

【講演会】 2回を予定(詳細は『広報まちだ』7月11日号に掲載予定)。

【ギャラリートーク】 毎週土曜日 午後2時～(1時間程度)

問い合わせ 自由民権資料館 (〒195-0063 町田市野津田町897 ☎734・4508)



▲「幕内の相撲」
『团团珍聞』明治14年10月22日号
北海道官有物払い下げ事件を風刺した漫画。タイトルは、政府内での争い、という意味。蛸(開拓使長官の黒田清隆)と熊(大隈重信)の相撲を観客の犬が見守っている。犬の首輪には「民」の文字。「民犬」=民権家が、土俵の外から両者の対立を注視している様子を表している。

町田市歴史の一コマ

風刺漫画「金の敵」を読む

これは、『团团珍聞』明治17年9月6日号掲載の漫画です。左上の「貸附城」を指す、瘦せ細った男衆が手にしている采配に「フケイ采」、鉄砲に「ムテツ砲」、弓に「コン弓」、棒に「ヒン棒」と書かれています。「不経済」「無鉄砲」「困窮」「貧乏」の意味でしょう。「貸附城」の右の消された囲み文字には、「蜂逢ふ寺(八王子)」と書かれています。

この年の8月、借金にあえぐ農民たちが八王子周辺の寺社や峠にたびたび集まります。松方正義大蔵卿のデフレ政策で繭や生糸の値段が暴落したため、借金の返済のあてがない農家が溢れていたのです。農民たちは同じ悩みを持つ者同士で金貸会社と交渉し、返済条件の緩和を求めます。市域からも

多くの農民が御殿峠などに集まり、八王子に迫ろうとしました。これらの農民の集団行動には、示威運動的な意味合いもありました。それを巧みに揶揄したのが、この漫画です。



新連載

遺跡が語る土地の記憶

なすな原遺跡(南成瀬八丁目)

なすな原遺跡は、1975(1980年)の東急電鉄長津田車庫建設に伴い発掘調査が行われた旧石器時代〜平安時代の遺跡です。特に発見例が少ない縄文時代晩期の集落と集団墓地が発見されたため全国的に注目されました。この遺跡からは市指定有形文化財である市内最古の縄文時代草創期(約12000年前)の深鉢も発見されました。

昔からこの地はナズナ長者の屋敷があったと伝承されてきました。これは大量に落ちていた土器片を屋根瓦と誤認したためです。

現在は東急電鉄最大の車両基地として見渡す限り電

車が並んでいますが、この地にかつて関東を代表する大遺跡が眠っていたことはあまり知られていません。

▲発掘調査中のなすな原遺跡

▲現在の長津田車庫の様子

▲なすな原遺跡の位置(赤で囲んだ部分)